

北京日本人学校における文化交流学習の実践

前北京日本人学校 教諭

静岡県磐田市立神明中学校 教諭 渥 美 直 和

キーワード：在外教育施設，北京，交流学習，歴史学習，文化交流

1. はじめに

北京日本人学校では、学級教育目標の「国際性豊かな子」の育成を具現化するべく、在外教育施設であり、首都にある学校という地の利を生かして、毎年のように現地校（北京の小学校）や現地の外国人学校（韓国国際学校など）と交流学習を進めていた。私が3年間所属していた小学校6年部では、小6で歴史学習が始まるということや、日中の歴史的な施設（盧溝橋など）へ社会科見学で行って学習していることから、ここ数年来は歴史的なアプローチ、例えば日中戦争から何を学ぶか、それを踏まえて今後の日中関係をどうしていけばいいのか等について交流学習を深めていた。しかし、その過程で、その交流の前提として互いの文化や生活習慣についての理解がなければ、よりよい交流ができないのではないかと感じられたこと。また、交流を行う前の事前協議でも、相手校の先生方から日本の文化について教えて欲しいという要望があったことなどから、3年目の交流学習は互いの文化交流を中心とした活動として行うこととし、以下のようなテーマと研究仮説を設定した。

2. テーマと研究仮説

自国の文化を知り、進んで伝えようとする子 ～交流学習などを通し、コミュニケーション能力の向上をめざして～
日本文化を知る学習活動を展開し、系統的な交流学習の場を設定すれば、自国のことについて進んで伝えようとするコミュニケーション能力の基礎が培われていくであろう。

3. 指導の手だて

(1) 自国のよさや文化を知る活動・学習を充実させる。

- ①総合的な学習の時間 ②国語科『柿山伏』 ③国語科『句会』 ④国語科『百人一首大会』

(2) 系統的な交流学習の場の設定をする。

- ①望花路小学との交流（5月） ②文化交流発表会（11月） ③韓国国際学校との交流（12月）

4. 具体的な実践内容（系統的な交流学習を主に）

(1) 望花路小学との交流

① 活動のねらい

音楽や文化の交流を通して、互いの国や文化の違いに気づき、考えを伝え合うことで、相手の思いや文化を理解すること。

② 実施計画

児童が主体的に取り組めるよう、児童にとって「知りたい、伝えたいと思える課題」を提示し、その中で、自ら選び、どのような方法で伝えていくかについて考えさせていった。



	コース名	内容例		コース名	内容例
A	書 写	日本の書, はんこ	G	音 楽 1	和楽器など
B	踊 り	ソーラン, 盆踊り	H	音 楽 2	日本の歌など
C	詩歌・百人一首	短歌, 俳句, 百人一首	I	料理・菓子	和食, 和菓子
D	武 道	空手, 剣道, 柔道	J	ポップカルチャー	マンガ, アニメ
E	絵 画	水墨, ちぎり絵など	K	伝統遊び	将棋, 囲碁, あやとり
F	工 作	切り絵, 折り紙など	L	文学・歴史	昔話, 古典文学

③ 年間活動計画

月	内 容
5月	JSB アンケート実施 文化コースグループ分け 第1回交流(望花路小) 事後アンケート実施
6～7月	大地の時間に各文化コースごと研究・調査を進める メールでお互いの進捗状況の確認
7月	中間アンケート
9～10月	発表内容をパワーポイントでまとめる 中間アンケート②
11月	第2回交流(望花路小) → 相手校の都合で実施不可 ※保護者への発表に変更 発表会(実演・パワーポイント)・質疑応答 事後アンケート
12月	他学校との交流で発信(韓国国際学校)
12月末	最終アンケート まとめ

④ 成果

望花路小学の児童とお互いの文化について交流する中で、今後の調べ学習に対する意欲づけになった。伝統遊びや武道を実際に披露した児童も、相手校の反応の良さから、「伝えたい」という気持ちを強くもつことができていた。

(2) 校内での発表会

① 活動のねらい

- ・日本の伝統文化について興味・関心をもって調べた内容を、同級生や保護者に伝える。
- ・どのような発表をすると、聞く人たちにより伝わるか考えながら発表する。
- ・発表者の立場になって、気持ちを受け止めながら聞く。

② 実施計画

- ・日 時：平成23年11月18日(金)
- ・場 所：6年1組(E：日本絵画 F：日本工作 G：和楽器 J：日本ポップカルチャー)
6年2組(A：日本書写 D：日本武道 K：日本伝統遊び L：日本文学・歴史)
6年3組(B：日本踊り C：日本詩歌・百人一首 H：日本歌 I：日本料理・和菓子)

③ 児童の感想

- ・今回は好きな音楽について発表できたし、いつもより大きな声でみんなに分かりやすく伝えられたので良かったです。
- ・今回は1回目の発表の反省を活かして、2回目では内容を少なくして発表をし、大きな声でできました。
- ・もう少し大きな声でお客さんの方を向いて発表したら、もっとよかったです。
- ・今回は、日本の文化を沢山知ることができた。知っていると思ったことでも、意外な発見が結構あって楽しかった。
- ・一から調べて作り上げたので達成感があった。またこのような活動があったらしたいです。

・プレゼンテーションを発表して思ったことがあります。それは仲間の大切さです。私が困った時に助けてくれて、プレゼンテーションが成功したのは仲間のおかげです。

④ 成果

本来ならば、中国の現地の小学生に対して行うはずの発表会であった。しかし、都合によりそれができなくなってしまった。その発表会に向けて準備した「中国語版」プレゼンテーションや、「英語版」プレゼンテーションは無駄にはなったものの、級友や保護者に対する発表会で、様々な達成感を味わわせることができた。

発表の際には、相手意識をきちんと持ちながら、声の大きさや目線の置き方にも注意しながら活動することができていた。発表時間が長い場合には、急ではあったが説明を削ったり、簡単な言葉で説明したりと、様々な工夫を凝らすことができた。

また、発表を聞く際にも、静かな態度で発表に集中し、きちんと理解することもできていた。

(3) 韓国国際学校との交流

① 活動のねらい

- ・同じ中国に住む外国人どうしとして、交流を行い、互いの国への理解を深め合う。
- ・韓国国際学校の児童に北京日本人学校とその活動、日本についての紹介をする。

② 実施計画

- ・日 時：平成23年12月3日（金） 9：40～14：50
- ・場 所：韓国国際学校（体育館・校舎内外）

③ 当日までの活動計画

- ・交流会のイメージづくり ・韓国の文化調べ・出し物の練習
- ・自分の話したい言葉調べ、セリフづくり、練習 など



④ 当日の活動内容

時間	活動内容	子どもたちの動き
10：00～	開会式	・体育館に入って、グループごとに並ぶ。
10：10～	韓国文化紹介	・テコンドー披露。 ・プレゼンによる文化紹介。
10：50～	日本文化紹介	・11月18日に行なった校内での発表会を受け、3つのグループを選抜し、その担当児童による文化紹介。 ①日本料理・和菓子②日本ポップカルチャー③日本伝統遊び
11：30～	ソーラン節披露 練習 みんなで踊る	・北京日本人学校のみんなで、ソーラン節を踊ってみせる。 ・対面しながら、韓国国際学校の友達と一緒に練習をした。 ・練習（2回）後、約160名でのソーラン節を完成させた。
11：30～	食事タイム	・体育館で、グループごとに韓国料理をいただく。 ・韓国国際学校の児童から「海苔巻き」の作り方を教えてもらいながら、一緒に作って食べた。
13：20～	グループ遊び	・8つの遊び（韓：トッホ、2人3脚、長縄など 日：剣玉、こま、めんこ）のブースを、各グループで回る。
14：30～	閉会式	・最後は、校門前で花道を作って送ってくれた。

⑤ 児童の感想

- ・日本の文化を今までよりもっと知ることができた。
- ・韓国のことを沢山知ることができた。日本のことも教えてあげることができた。
- ・人前に出ることが恥ずかしかったけれど、今回は「伝統遊び」を韓国の人の前で発表することができた。
- ・日本語を使わずに英語と中国語で会話できました。相手に伝わるように、また、理解するように努力すること

ができました。

- ・相手から中国語で聞いて、日本の友達に日本語にして通訳することができました。
- ・自分が成長できたところは雪合戦でいっぱい友達を作れたこと。

⑥ 成果

準備時間を十分に児童に確保してあげることができなかったが、限られた時間の中でも気持ちを交流の方にもっていくことができた。

また、この交流を通して、ねらいには掲げていないようなものにまで、児童の変容が見られた。それは、今までの自分の殻を打ち破るようなものだった。学級の友達に自分からなかなか話しかけることのできなかった児童が、この交流の中で得意な中国語を活用しながら、韓国の友だちと北京日本人学校の友達との架け橋となって活躍をしていた。その児童の反省には「相手から中国語を聞いてみんなに日本語に通訳することができました。また、仲のいい友達ができました。」とある。そのことから、「自国の文化を知り、進んで伝えようとする子」の素地は培われてきていると思う。

5. 終わりに ～考察～

- グループ内でプレゼンテーションを作るための打ち合わせを重ねることで、スムーズな話し合い活動ができるようになった。
- 韓国国際学校との交流では、「日韓の食の交流」や「日韓の文化を披露する交流」ができた。これにより、文化的な共通点や相似点についてじっくり考え、相手の素晴らしいところや見習いたいところについても多くの意見が出された。
- アンケート結果から見ると、ほぼ全ての項目において、前向きな結果が出ている。
- ▲年間を通して、子どもたち通しもメールを使い活動内容についてやり取りをしながら、お互いの文化について討論できることをめざして活動していたが、相手校の都合により、年度途中で交流が難しくなってしまった。そのため、予定していた交流における討論や系統的な場での子どもの変容を細かく見るができなかった。

資料 2回の交流後アンケート比較 (2011年5月下旬時→2011年12月初旬)

